

氏名	矢 吹 隆 行
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博甲第 2590号
学位授与の日付	平成15年3月31日
学位授与の要件	医学研究科内科系放射線医学専攻 (学位規則第4条第1項該当)
学位論文題目	MR Imaging of Renal Cell Carcinoma: Associations among Signal Intensity, Tumor Enhancement, and Pathologic Findings (腎細胞癌のMRI、信号強度・造影効果と病理所見との関係)
論文審査委員	教授 岡田 茂 教授 槻野 博史 教授 公文 裕巳

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

腎細胞癌の治療法を選択したり患者の予後や合併症を予測するため、画像診断は重要である。腎細胞癌 54 症例 56 病変を対象とし、その dynamic MRI 所見と病理所見との関係を検討した。検査は全例同一の 1.5T の機器を使い、撮像シーケンスは FLASH T1WI, TSE T2WI で、dynamic study を行い早期相・後期相を撮影した。画像所見として腫瘍の信号強度と造影効果を、病理所見として組織型と grade を評価し、その関係について検討した。その結果 grade3 と造影効果は有意であり、grade3 の病変は造影効果の乏しい傾向があった。病理組織学的検索では、組織型に関わらず G3 の症例では高度の異型性をもった腫瘍細胞が見られ、血管は乏しい傾向があった。造影効果の乏しい腎細胞癌は、悪性度の高い病変である可能性が高く、そのような腫瘍は特に注意深く手術の適応や経過観察を考える必要があると考えられた。

論 文 審 査 結 果 の 要 旨

本研究は、腎細胞癌 54 症例 56 病変を対象とし、その dynamic MRI 所見と病理所見との関係を検討したものである。その結果、造影効果の乏しい腎細胞癌は、悪性度の高い病変である可能性が高く、そのような腫瘍は特に注意深く手術の適応や経過観察を考える必要があると考えられた。本研究は MRI 読影の上で一定の知見を得たものである。

よって、本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。